

インマヌエル中目黒キリスト教会

2014年2月16日聖日礼拝

使徒の働き連講 (23)

「なぜわたしを迫害するのか？」

使徒の働き

9章 1 – 8節

竿代 照夫 牧師



聖書朗読

新約聖書

使徒の働き9章 1 – 8 節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp224~/ 第三版の聖書はp244~

- 1 さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、
- 2 ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。
- 3 ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。

- 4 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。
- 5 彼が、「主よ。あなたはどなたですか」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。
- 6 立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたのしなければならぬことが告げられるはずです。」

- 7 同行していた人たちは、声は聞こえても、だれも見えないので、ものも言えずに立っていた。
- 8 サウロは地面から立ち上がったが、目は開いていても何も見えなかった。そこで人々は彼の手を引いて、ダマスコへ連れて行った。

説教

使徒の働き連講 (23)

「なぜわたしを迫害するのか？」

使徒の働き9章 1 – 8節

竿代照夫 牧師



主テキスト

「彼は地に倒れて、
『サウロ、サウロ。
なぜわたしを迫害するのか。』
という声を聞いた。」

(使徒9:4)

A. 迫害にひた走るサウロ(1—2節)

1. 迫害の始まり(8:1)

2. サウロが迫害のリーダーになる

- ・サンヒドリンが与えた逮捕許可状を携えてダマスコへ

3. サウロが迫害を行った動機

- ①思想的側面：ユダヤ原理主義的な正義感
(ガラテヤ1:14、ピリピ3:5-6、
使徒22:3-5)

- ②感情的側面：加虐本能(人を苛めることを
喜ぶ気持ち)(1テモテ1:13、
ガラテヤ1:13、使徒8:3、26:9-11)

- ③霊的な側面：キリスト者の輝きへの羨望

B. 復活のキリストの現われ(3-7節)

1. 光の主として
2. 自分を愛し給う主として
3. 信徒と共に苦しむ主として
(イザヤ63:9)
4. 復活された主として(1コリント15:8)
5. サウロへの使命を与える主として

C. サウロの変化(8節)

1. 謙り:「主よ」との呼びかけ
2. 無力さの自覚:盲目にさせられた
3. 服従:主に従う生き方(地図参照)



おわりに

サウロに現われた主は、今も変わらない